

Title	日本画19世紀末の一様相 : 中川重麗研究の 一端
Author(s)	榊原, 吉郎
Citation	デザイン理論. 2005, 47, p. 130-131
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53272
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

日本画……19世紀末の一様相…… — 中川重麗研究の一端 — 榊原吉郎/京都市美術館嘱託

近年、重麗研究が進展し、彼が選び出した原著者のユストゥス・ブリンクマンも、19世紀末から20世紀初頭のドイツの日本美術の受容に重要な役割を果たした人物であることが明らかにされている」。

明治27年1月から12月まで10回に亘って, 京都美術協会雑誌に掲載された。(4・5月 は休載、理由は不明)第1回から6回まで, 題名が「日本画の評」とされ,7回以後, (絵具を論じ次に席上揮毫に及ぶ),(席上揮 毫を看ての驚き及ひ骨法),(画術と書法と相 似たる事),(日本人は配色の名人なり)とい う副題が付く。付けたのが訳者か,編集者か は不明。

重麗は、著者を「ユスツース・ブリンクマ ン」、「独逸ハンブルグの博物館長」、書名を 「日本の技術及手藝」とし、「日本の美術工藝」 を論じた「新著述」の中から「絵画の一部を 抄訳したるもの」である,と記す。原本は 「序言・自然・植物・動物・人種・住居・宗 教・造園・建築・民族衣装・武具・技術全般・ 絵画・印刷技術|である。抄訳部分は、総頁 294頁中,絵画部門53頁の前半である。原本 は日本文化研究センターに収蔵されている。 優れた写真製版の技術が示され「ジロッター ジュ」と称された亜鉛版印刷の技法が活用さ れている。1889年ベルリンのワグナーから出 版した「Kunst und Handwerk in Japan」 「日本に於ける美術と手工芸」である。ブリ ンクマンは来日していないが、じつに種々の 情報を入手して論述している。ブリンクマン は〔日本画工の想と欧州画工の想と多くの着 眼に於て遠く相庭逕す〕と、「想」。の差異を

指摘し、差異があるのだから〔同一の批評的 尺度を此二人種の美的本性が作り出せる美術〕 に下してはならない、とする。「想」の差と とは、日本の「画術」が〔今は既に亡滅立立 る技術〕であり、〔科学を基礎として組 るさ当世の欧羅巴の技術³〕とは大きく る、と考えた。陰影法、遠近法、解剖学を 外視しているのが、〔我々に美の宝物と愉快 なる思想とを発見し、幕を除きて眼の前に えしめたることを、蓋し此の美と愉快とは まる も厳正なる批評家をも欺き、彼が系統の とき をも皆悉く許して咎めざらしむるなり、され ど熱心なる日本画崇拝家が此の謬誤を却 を 範となすは固より非なり〕という。

さらに日本絵画の〔佳良なる製作を観るに、個々の欠点は直に指べし、欧州の学校に在りて、技術の研究をなしたるものは、容易に此の誤謬を見出し容易に之を改作するを得べし〕と西欧の先進優位の意識が露出する。

[真の美術家が彼を観れば大学の哲学の世界理屈の外に在る所の一異物を認む、此の異物は科学なる解剖学の如きは嘲りて近づけず、不完全なる器械力が天才の動力の為に導かれるの証拠を与ふべし〕〔彼れが欧州画工に就て学ぶべき事の少なからぬが如く、我欧州画工の彼れに従ひ別に学ふべき伎倆亦実に少なかららざるなり〕とあり、当時のジャポニスムの影を看取できる。

ウィリアム・アンダーソン⁴の(The pictorial arts of Japan)を持出し、日本絵画を「真美術」の産物としない一派と日本絵画を妄拝せる一派の中間にアンダーソンを位置づけ、〔公平の批評は、不偏・不覚家の鑑識

家にあらざれば決して下す可からざるなり〕 と結論する。

「ドクトル、ハ、ギルケー」と「アンダーソン」によって、欧州人は日本画術の歴史概要、発達及意味の弁論を吸収できた、とブリンクマンは考え、「ギルケー」が早世し、「日本画道の歴史」が著述できなかったと残念がっている。

ブリンクマンは、アンダーソンが大英博物館に目録書を作成し、〔日本美術の歴史を研究せんと欲する人々の為めに、精確なる指南車たるを得たるものなり〕とし、〔人種学上の智識のみならず、美学上の価値を解するを得しめたる偉功は、蓋し佛人のロイス・ゴンゼー氏ならん〕といい、ゴンスの背後には若井兼三郎がいたことを指摘する。若井に就いて、重麗は〔ワカ井(若井?〕君の補助を得たること少からず〕とし、起立商工会社を創設に参画していた骨董商の若井兼三郎の業績を重麗が知らなかった。

〔ワカ井君は自国の美術歴史に至て邃き人にして、ゴンゼー氏の著作を助け唯だ歴史上の材料を補助したるのみならず得易からざる祖国の美術品を貸与し、以て大画伯の作を熟覧するを得しめたり〕とブリンクマンは記述し、ゴンスと若井の日本美術理解に反論するフェノロサを挙げ、その論文®を引き合いに出す。

重麗は,〔日本画通を以て任ずと雖も,未だ其説は悉く信ずるの価値あらざるなり〕とするが,〔外人を以て深く他国の美術界に足を投じ穿鑿に全幅の力を余さず,自家の見識を以て一説を立つ,敬服せずんばある可からず〕とフェノロサを認める。

(二種の厳正なる疑念無き能はざるべし, 一はフヱノロサア氏がホクサイ(北斎)及其 門弟を評して極めて貶低したること,即ち氏 は恰もコル子ル派⁷の人が,酷なる観察を下 して、今日の主実的新画工を其目前に於て詳 識したるが如きこと是なり、而して亦一は氏 の批評眼の政治上の潮流に捲かれたるが如く 見ゆること是なり、……中略……徳川将軍の 政治を執れる間に遂げたる華麗なる美術の発 達をさるものとせず頭を回して王政の数百年 間長夜の睡の覚ざりし時代より更に古代の盛 運を挽き回さんと欲するものなり、……中略…… フエノロサアは実に第十九世紀の日本の美術 に対して、彼れ自ら昔し京都に在りし古朝廷 の貴人の如く想へりしが如し〕と批判するブ リンクマンの意図の背後に欧州人と米国人と いう対立構造が読み取れる。

注

- 『ドイツにおける〈日本=像〉』クラウディア・デランク,水藤龍彦・池田祐子訳(思文閣出版 2004・7・22)
- 2 「想」の原語は (Das Ideal des japanischen Malers) の Das Ideal にある。
- 3 アルバート・ボイム「19世紀のアカデミーと 仏蘭西絵画」参照。
- 4 アンダーソン: William Anderson Descriptive and historical Catalogue of a Collection of Japanese and Chinese Paintings in the British Museum, Londres, 1886
- 5 H. Gierk『資料御雇外国人』小学館1975 「ギールケ・ハンス Gierke, Hans 独, 1847 /8/1~? M10~13東京医学校・東京大学 医学部解剖学教授, ウルツブルヒ大学の解剖 学及び組織学教師。
- 6 Review of the chapter on painting in L'art Japonais by L Gonse.
- 7 意味不詳